

ガーデンシティふかや推進室 [ふかや緑の王国・深谷市榎引24-2(花植木流通センター隣)] ☎551-5551

花を愛し、人を愛し、地域を愛するまちづくり!!



ボランティア募集!

～市民協働の花のまちづくり～



月に1回、週に1回、自分の都合でほんの数時間だけでも参加してみませんか!



市民ガーデニングボランティア

JR深谷駅北口ステーションガーデン、深谷駅通り、国道17号、深谷城址公園、秩父鉄道武川駅南口の5カ所の花壇を管理しています。

また、「ふかや花フェスタ」での会場装飾も行っています。参加できる日が少なくても大丈夫です。皆さんと楽しく花壇を整備して、深谷市をきれいに彩りませんか。



ふかや緑の王国ボランティア

ふかや緑の王国は「市民がつくり、市民が守り育てる 市民の森」。市民との協働作業で成長する王国で一緒に活動しませんか?

王国での四季折々の催しも、ボランティアの力で開催しています。



深谷アダプトプログラム

「アダプト」とは、英語で養子縁組をすること。公園や道路、緑地などの公共空間を市民、学校、各種団体の皆さんが里親となって管理しています。オレンジの看板が目印です。興味のあるかたは遠慮なくご相談ください。

<もみの木ガーデンの管理団体募集!>

稲荷町一丁目地内にある「もみの木ガーデン」を管理する団体を募集します。詳しくは、ガーデンシティふかや推進室までお問い合わせください。



▲もみの木ガーデンの様子

◀もみの木ガーデン地図

ガーデニング教室参加者募集!

【ドライフラワーになるスワッグ作り】

ユーカリやプロテアなど人気のオーグジュラントを使ったスワッグです。ドライフラワーになる様子が楽しめます。

とき 2月1日(水)午前10時～正午

ところ ふかや緑の王国

定員 先着15人 参加料 2,000円

講師 本庄恵美氏(園芸装飾技能士)

申し込み 1月11日(水)午前8時30分から電話でふかや緑の王国へ(1回の申し込みで2人まで)



【サクラソウ教室】

深谷生まれのサクラソウ「中瀬紅」を自分で育てて、その魅力を感じてみませんか。

とき 2月8日(水)午前10時～正午

ところ ふかや緑の王国

定員 先着10人 参加料 1,200円

講師 河田博氏(ふかや緑の王国ボランティア)

申し込み 1月11日(水)午前8時30分から電話でふかや緑の王国へ(1回の申し込みで2人まで)



早春のガーデンガイドツアー参加者募集

早春のかわいらしい花々を探しに出かけませんか。ふかや緑の王国ボランティアが案内します。

とき 2月18日(土)午前10時～11時30分

ところ ふかや緑の王国 定員 先着20人

参加料 300円(王国植物花暦、花苗1ポット付き)

申し込み 1月18日(水)午前8時30分から電話でふかや緑の王国へ



▲セツブンソウ

第19回福寿草展

新春を彩る福寿草を展示します。今よみがえる幻の名花を見に来ませんか。

とき 1月28日(土)・29日(日)午前10時～午後4時(29日は午後3時まで)

ところ 深谷市民文化会館

問い合わせ 平成福寿草の会・野辺さん

(☎090-1464-8206)、深谷市地域振興財団(☎573-8765)



ボランティア団体を紹介します

ボランティアグループ『ふれあい』

ボランティアグループ「ふれあい」では、車椅子介助ボランティアを行っています。皆光園の方々が、園外へ買い物に行く際に介助ボランティアをしています。

車椅子介助未経験でもOK!

ボランティアスタッフとして

私たちと一緒に活動しませんか?

活動日: 毎月第2金曜日

活動場所: 深谷グリーンパーク・パティオ、大型商業施設など

問い合わせ: ボランティアグループ「ふれあい」

会長 太田良一 (☎048-573-6837)

興味があり、一緒に活動できるかたの連絡をお待ちしています。



▲皆光園施設ボランティアの様子



▲車椅子介助ボランティアの様子

畠山重忠を知る

武蔵武士の鑑

畠山重忠



幡羅官衙遺跡からつながる
畠山重忠の時代

市で初めて国史跡に指定された「幡羅官衙遺跡」(東方地区)は、畠山重忠の時代からさかのぼること約500年前の飛鳥時代末に成立し、平安時代前期まで300年以上の長期にわたって、律令制のもとで古代幡羅郡の群役所として存在していました。重忠が活躍した平安時代末、鎌倉時代初期には、郡役所は失われてしまいましたが、まだ律令制が残り、郡役所の上位にあった役所(国衙機構)やその長官の国守などが存在していました。

土着国司(現地に住む官吏)や郡役所があった頃の郡の有力者は在庁官人として国衙の体制に組み入れられ、国守が派遣する目代(代官)のもとで、在庁官人が徴税や軍事といった実務を行うようになります。国守のいない国衙は留守所と呼ばれ、重忠が任じられたとされる「武蔵国留守所惣検校職」は、武蔵国の在庁官人のトップとして大きな権限を持ちました。

このように、郡司の権限は国守に吸収されていき、郡役所は10〜11世紀頃に消えていきます。その末期であり、律令制度を揺るがす事件となった平将門の乱(939年)が起きた頃、幡羅官衙遺跡から郡役所の象徴的存在である正倉(税である稲穀を納めた倉)が無くなっており、律令制の動揺を市内の遺跡からも知ることができます。

幡羅官衙遺跡は現在畑の下に眠っていますが、県内で確認されている古代郡役所跡はもう一つあり、それが道の駅おかの西側にある中宿遺跡です。中宿遺跡は公園として整備され、巨大な倉庫が復元されており、重忠達武士の世になる前の、律令時代に思いをはせることができます。